



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 81

May 2021

今号のトピックス

2021 年度日本植物分類学会第 20 回大会の発表賞受賞者の
「喜びの声」を掲載しています！ → 5 ～ 6 ページ

目 次

諸報告

2020 年度日本植物分類学会第 19 回大会（岐阜）の報告	2
2021 年度日本植物分類学会第 20 回大会（オンライン）の報告	3
2021 年度日本植物分類学会大会発表賞の報告	4
2021 年度日本植物分類学会大会発表賞受賞者 喜びの声	5
2021 年度総会議事抄録	7
2021 年度事業計画および予算	8
会務報告	8
2020 年に到着した交換図書一覧	8

お知らせ

東アジア国際植物分類学シンポジウム 2021 のご案内	9
日本植物分類学会第 21 回大会（横須賀）のお知らせ	9

書評	10
会員消息	12

諸報告

2020 年度日本植物分類学会第 19 回大会（岐阜）の報告

第 19 回大会事務局 川窪伸光・須山知香

日本植物分類学会 第 19 回大会 岐阜（2020 年 2 月 29 日～3 月 3 日）を COVID-19（新型コロナウイルス）蔓延防止のために現地開催中止【ご理解への感謝と事後報告】

現地開催中止の詳細は、日本植物分類学会第 19 回大会岐阜の WEB サイトに報告済みですが、NL 上の事後報告が遅れましたことをお詫び申し上げます。ここに改めて、現地開催中止へのご理解に感謝申し上げますと共に、事後処理報告をさせていただきます。

1 日あたりの国内感染者数の 7 日間平均が 17 名となった時点（第一波直前）で、現地開催の中止を決定しました。中止をお知らせした 2020 年 2 月 21 日（金）の時点で、大会の事前参加登録者は 215 名（一般 153 名、学生 62 名）、懇親会申し込みが 154 名でした。うち研究発表登録は、44 題の口頭発表と 77 題のポスター発表でした。当日参加予定だった方々を含めると、大変賑やかな大会になったと思われます。現地開催中止を受けて発生した様々な事後処理はほぼ完了しました。現地でお渡しする予定であった大会発表講演の要旨集、領収書、そして懇親会費と弁当代の返金用郵便為替を参加予定者のみなさんにお送りしました。会計処理もほぼ終了し、大会参加費による資金から大会準備支出を差し引いた残金、また学会からの大会開催補助費の全額 10 万円を、次期 20 回大会事務局へ引き継ぐことといたしました。

また公開シンポジウムとして「植物誌の科学：身近な植物から世界の植物まで網羅する挑戦 ～岐阜県植物誌から植物の世界を見る～」を企画しておりました。これに関連して全国の地方植物誌の展示を企画し、植物誌の寄贈を呼びかけました。その結果、多くの方々から、開催への励ましのご連絡を頂くと共に、2020 年 2 月 21 日（金）の時点で、51 冊の植物誌が寄贈され、誠にありがたい期待をいただきました。中止になってしまった公開シンポジウムは、コロナ禍明けに少し形を変えて、岐阜大学で開催する計画を現在進めております。また、ご寄贈いただいた植物誌は、その岐阜大学で開催計画中のシンポジウムで公開展示させていただくと共に、現地開催できるようになった時点の日本植物分類学会大会にて、特別なブースをつくり公開展示したいと考えております。

この度の岐阜大会にご期待いただき、また現地開催中止を暖かく理解していただき、誠にありがとうございました。皆様の研究のご発展を心より願っております。

日本植物分類学会 第 19 回大会 会計報告書 2021.2.1

収入		支出	
参加費	709,000	会場費	0
懇親会費	777,000	印刷費	165,780
弁当代	47,000	文具、通信費等	302,056
要旨集購入代	20,000	懇親会返金	777,000
東京大会繰越金	172,759	弁当代返金	47,000
大会補助金	100,000	アルバイト賃金	189,000
		植物誌展示準備等	70,000
		岐阜大会 繰越金	2,164
		東京大会繰越金の返金	172,759
		大会補助金の返金	100,000
収入合計	1,825,759	支出合計	1,825,759

2021 年度日本植物分類学会第 20 回大会（オンライン）の報告

第 20 回大会会長 村上 哲明（東京都立大学 牧野標本館）

第 20 回大会実行委員長 海老原 淳（国立科学博物館 植物研究部）

日本植物分類学会第 20 回大会を 2021 年 3 月 8 日（月）～ 10 日（水）にオンライン（Zoom のウェビナーシステムを利用）で開催しました。オンラインでの大会は、本学会史上初めてでしたが、参加者総数は 315 人、口頭発表が 66 件、そのうち大会発表賞にエントリーしたものが 33 件でした。例年の対面で開催される大会と比べても、それほど変わらない参加者数と発表数、そして発表賞へのエントリー数がオンライン大会でもあったことになります。

今大会ではポスター発表、懇親会、公開シンポジウムは行わず、口頭発表のみとさせていただきました（発表用のウェビナーのサイトとは別に、参加者同士で雑談ができる Zoom 会議室を休憩室として開設しておきましたので、これを活用して情報交換をし、オンラインでミニ懇親会を自主的に開いた会員もいらしたようです）。今回は、大会参加費を参加者から徴収しないで開催できるように、会員のみが参加できる最もシンプルな形の大会とさせて頂きました。懇親会は、若手会員がお互い同士、あるいは他機関に所属する先生方と知り合いになれるとても重要なものであることは我々も重々承知しておりました。懇親会や、一般講演よりも気楽に植物の話が聞ける公開講演会を楽しみにされていた会員もいらっしまったと思いますが、それらを開催できなかったことをお詫び申し上げます。

一方で、オンライン大会は、会場まで行かなくても自宅で参加できるなど良い点もあります。普段、さまざまな事情で会場に足を運ぶことが難しく、大会に参加しておられなかった会員の方が今回のオンライン大会に参加してくださって、楽しんでいただけたのなら幸いに存じます。

今大会を開催するに当たっては、例年の大会よりもはるかに多くの人数の会員の皆さんに協力していただきました。その詳細については、後述する「組織」のところでご紹介いたしますが、これらの方々のご尽力があつてはじめてオンライン大会を無事に開催することができました。心より御礼申し上げます。

収支

上でも述べました通り今大会は参加費を無料とし、支出は学会からの大会補助金 10 万円の範囲内に留める方針で運営を行いました。決算を右の通り報告いたします。

支出	金額
ZOOM 契約料	18,692
ZOOM 契約料（追加）	1,432
プログラム印刷費	38,500
合計	58,624

大会組織

今大会ではアルバイトは一切雇用せず、会員有志から構成された大会実行委員会メンバーが全ての準備・運営を担いました。このようなご協力なくしては円滑な大会運営は不可能だったと考えています。以下に委員のお名前を挙げさせていただき、改めて感謝の意を表します。

会計：國府方 吾郎（国立科学博物館）

庶務：西野 貴子（大阪府立大学）

参加申込：高野 温子（兵庫県立人と自然の博物館）

要旨集編集：布施 静香（京都大学）

ホームページ：阪口 翔太（京都大学）

ウェビナー管理：岩崎 貴也（神奈川大学、現・お茶の水女子大学）、佐藤 博俊（京都大学）、石川 直子（大阪市立大学）、首藤 光太郎（北海道大学）、須貝 杏子（島根大学）、田金 秀一郎（鹿児島大学）、望月 昂（東京大学）

トラブル対応電話受付：大村 嘉人・堤 千絵・保坂 健太郎（国立科学博物館）

研究発表

近年、単一会場ではプログラム編成が困難になるほど口頭発表の申し込みが増加しており、ポスター発

表枠のない今大会では2会場（2つのZoomウェビナー）での並行開催の可能性も考慮に入れて当学会の大会準備を行いました。その一方で、2020年は新型コロナウイルスのせいで野外調査に強い制限がかけられていましたので、多くの会員が研究を進展させられず、発表数が大幅に減少するのではないかと心配しておりました。結果としては、例年通りの発表時間15分（質疑含む。実際には切替時間を考慮して14分30秒で3鈴としました）で辛うじて1会場に収まる数の（多すぎず、少なすぎない数の）発表申し込みをいただき、実行委員一同胸をなでおりました。コロナ禍で研究活動にも少なからず悪影響が及んでいると思われませんが、発表内容も例年通りの多様かつ充実したものでしたので、大変心強く感じました。

課題

本学会初のオンライン大会の開催にあたっては、約半年前に開催された日本植物学会のオンライン名古屋大会において作成されたZoomウェビナー関係の運営マニュアル類一式を高橋 宏二先生（名古屋大学）からいただいて、参考にさせていただきました。高橋先生を始め日本植物学会名古屋大会実行委員会の先生方に感謝申し上げます。さらに、大会当日の技術的トラブル発生を最小限に留めるため、事前に接続テスト日を複数設けました。その結果、大会スケジュールに影響を及ぼすような深刻なトラブルはほぼ回避することができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。小さなトラブルはありましたが、それらも含めてオンライン大会運営のノウハウは今後に引き継いでいく方針です。開催日程については、全日程平日開催だったこと（今回は、日本植物学会のオンライン大会で寄せられていた子育て世代の発表者からの要望を考慮させていただいて、子供を保育園などに預けることができる平日の日中のみの開催としました）への賛否、様々なご意見をいただいております。全てのご要望に応えることは難しいですが、いただいたご意見は今後の大会運営に役立てるために引き継いでいく所存です。

2021 年度日本植物分類学会大会発表賞の報告

大会発表賞選考委員長 黒沢高秀

日本植物分類学会第20回大会においてすぐれた研究発表をした若手研究者に授与する大会発表賞は、以下の4名に決まりました（大会プログラム掲載順、いずれも口頭発表）。おめでとうございます。

三木 綾乃（京大院・人環）

「超苦鉄質土壌におけるアキノキリンソウの平行的な土壌適応に関わる Mg^{2+} 輸送体遺伝子」

長澤 耕樹（京大院・人環）

「火山性強酸性土壌におけるヤマタヌキランの分布決定要因 – 現地調査と栽培実験に基づく pH と Al^{3+} の影響評価 –」

山本 武能（琉球大・熱生研）

「西表島の植物相解明に向けて：全島調査により見えてきた多様性と分布の傾向」

新田 ジョエル（東大・院・理）

「The Open Fern Tree of Life: 常に最新の状態を保つ全シダ植物系統樹に向けて」

エントリー資格者および審査方法は例年通り、すなわちパーマネント・ポストに就いていない若手研究者の学会員で、筆頭発表者かつ演者であり、申込時に大会発表賞へのエントリーを希望した人を対象にしています。本大会はオンライン開催であったこともあり、発表はすべて口頭発表でした。エントリー数は33題で、例年の口頭発表の1.5倍程度でした。会長、評議員、前回受賞者からなる15名の選考委員が、対象となるすべての発表（利害関係のある発表を除く）を審査し、研究内容5点、発表のうまさ3点の合計8点満点で評点をつけ、評点の平均点をもとに委員の合議で受賞者を決定しました。4名のうち、長澤さんと山本さんは2回目の受賞です。長澤さんの発表は前回（2018年）発表時より研究が大きく進展

していることが確認されました。山本さんは前回（2002年）とは異なる研究テーマでした。

選考委員会では、エントリー発表全体に対して研究内容やプレゼンテーション技術の高さを評価する意見がありました。一方で研究材料を選んだ理由が十分に示されていない、あるいは研究材料の魅力をアピールできていない発表があったことも指摘されました。限られた発表時間で難しいところもあると思いますが、思い当たる人は、受賞発表を参考に更に発表の質を向上させて、次回受賞を目指して下さると幸いです。

選考委員会では、発表賞の運営の仕方について多くの時間をかけて議論がなされました。曖昧であったことをルール化し、公開することの重要性が確認されました。前年受賞者は、審査過程の透明性の向上、受賞者に審査の大変さを実感してもらう等の目的で加わっていますが（ニュースレター 25: 4）、審査に加わる年は発表賞にエントリーできないことは過去の選考委員会内部では確認されていましたが、ルール化し公開されていませんでした。受賞回数に制限はありませんが（ニュースレター 35: 11）、それを知らないで遠慮した人もいたかもしれません。次回大会から大会案内時点でこれらのことは明記いたします。

大会2日間の長時間にわたって多数の発表を視聴し、公正な審査に力を尽くし、発表賞のあり方に真剣な議論をして下さった委員の皆さん、選考に際して準備や集計などの作業を担って下さった学会幹事の阪口翔太さん、選考がしやすいような時間割やスケジュールの調整でご協力頂いた大会準備委員会に感謝致します。



大会発表賞受賞式の様子（左上：村上会長，中央上：新田氏，右上：山本氏，左下：長澤氏，中央下：三木氏，右下：黒沢選考委員長）

2021 年度日本植物分類学会大会発表賞受賞者 喜びの声

ニュースレター幹事 山本 薫

発表賞受賞者のみなさまの喜びの声をお伝えいたします。

三木 綾乃さん

京都大学の三木綾乃です。この度は、発表賞という名誉ある賞を頂戴し、大変光栄に思います。

蛇紋岩土壤に代表される超苦鉄質土壤には、過剰量の Mg や重金属が含まれます。キク科アキノキリンソウ種内にはこの特殊土壤に適応した生態型（超苦鉄質型）があり、北海道の超苦鉄質地帯に隔離分布しています。本研究では、この適応現象に共通の適応遺伝子が関与したかどうかを明らかにするため、適応に関する候補遺伝子として、Mg²⁺ 輸送体遺伝子の塩基配列分析を行いました。結果、遺伝子機能や発現に影響を与える変異が確認されました。さらにこの変異を多集団で調査したところ、土壤 Mg²⁺ 濃度に対応した分布を示しました。一方、進化的に中立な遺伝子マーカーでは地理的な遺伝構造のみが検出されました。以上から、本種の Mg²⁺ 輸送体遺伝子には、分岐選択が繰り返し働き、土壤間で遺伝子型頻度に偏りが生じたと考えられます。また超苦鉄質土壤で優占する派生型対立遺伝子は森林型集団にも低頻度で見られたことから、超苦鉄質土壤への適応には既存変異が用いられたと推察されます。

最後になりましたが、本研究を支えて下さった皆様に、心より御礼申し上げます。

長澤 耕樹さん

口頭発表賞をいただきました、京都大学の長澤耕樹です。このような賞をいただき、大変光栄に思います。



森林型
アキノキリンソウ



超苦鉄質型
アキノキリンソウ

私は、日本を代表する環境の一つである火山環境に適応を遂げたヤマタヌキランの、火山性強酸性土壌への適応機構の解明を目指し、研究を進めております。これまで、酸性土壌では pH の低下に伴い溶出する Al^{3+} が植物の生育に大きな影響を与えると考えられてきましたが、今回の研究結果は、より強酸性な土壌に生育するヤマタヌキランでは、 Al^{3+} よりも低 pH の方が生育に与える影響が大きいことを示しました。さらに、ヤマタヌキランは種分化の段階で新規に低 pH 耐性を獲得した一方、 Al^{3+} に対しては種分化以前から高い耐性を持っていたことも明らかとなりました。今後は低 pH 耐性の分子基盤に着目しながら、本種の適応進化の過程を解明していければと考えています。本研究を進めるにあたり、ご指導いただいた先生方、並びに助言を頂きました皆様に、深く御礼申し上げます。



ヤマタヌキラン

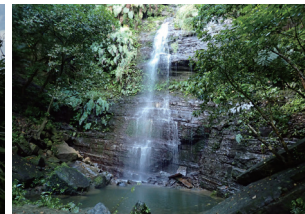


生育地の様子

山本 武能さん

口頭発表賞を頂きました琉球大学の山本武能です。発表後に多方面よりご指摘いただき気付いたのですが、私のミスで発表時に次のスライドや台本が丸見えだったとのことで、これは失敗したなあと考えていたところへの思いがけない受賞だったため、驚くと共に大変嬉しく思っています。

私達は現在、西表島のどこにどのような植物がどれくらい生育しているのかを明らかにするため、踏査と 1 km² メッシュごとに 1 地点のトランセクト調査を組み合わせた網羅的・定量的な手法による植物相研究をおこなっています。トランセクト調査はこれまでに全島の約 75% のメッシュで完了しており、今回の発表ではそれによって見えてきた、島の中心部ほど種多様性が高いといった傾向や、絶滅危惧種の集中する地域などについてご紹介しました。今後の調査は島中心部の到達困難な地点が多くなっていますが、この受賞を励みに調査研究に進進していきたいと思います。また本研究はその性質上非常に多くの方々との共同のもとに成り立っており、この場を借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。



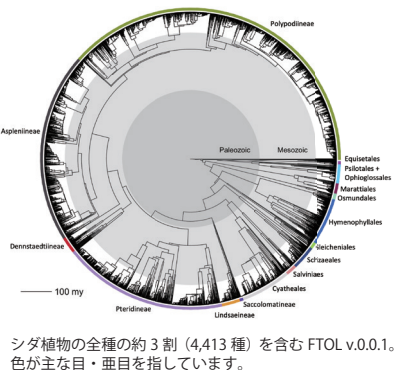
調査地への到達を困難にしている主要因：ツルアダンの藪（左）と地形図にない滝（右）

新田 ジョエルさん

口頭発表賞をいただきました東京大学の新田ジョエルです。今回の賞をいただき大変光栄に思います。

私はシダ植物の進化と生態学をテーマにして研究をしており、最近は大規模な観点からシダ植物全体の進化を分析しています。今回のプロジェクトでは、GenBank に蓄積されているシダ植物のシーケンスを使って、全地球規模のシダ植物の系統樹 (Fern Tree of Life = FTOL) を構築しようとしています。従来の系統樹とは異なり、今回の FTOL は、常に最新の状態を保つようにワークフローをなるべく自動化し、数ヶ月ごとに更新して、公開する予定です。これにより、いつでもどなたでもシダ植物の種を網羅した系統樹を入手することができ、様々な研究プロジェクトに応用することが可能になります。例えば、日本のシダ植物の系統的多様性や、全地球のシダ植物の生物地理学的解析のプロジェクトに使用しています。また、これから発表されるシダ植物の分類体制である PPG II と密接に連携し、常に最新の系統的關係を PPGII に反映させるようにしたいと考えております。

今回の研究はたくさんの共同研究者の方々のご協力によって可能になりました。この場をお借りして感謝申し上げます。今回の受賞を励みに今後の研究を進めていきたいと思います。



2021 年度 総会議事抄録

庶務幹事 西野 貴子

開催方法：WEB 会議システム zoom ウェビナーと、その投票機能をもちいたオンライン形式

日時：2021 年 3 月 9 日（火）13:00 ～ 14:10

1. 総会に先立ち、村上哲明 会長 兼 大会会長から挨拶があった。
2. 逝去された学会員への黙祷が捧げられた。
3. 田中伸幸氏が総会議長に選出された。
4. 報告事項

4.1. 会務報告

西野庶務幹事より、報告内容は第一号議案と同じであるため、議案審議の際に報告するとの説明があった。

4.2. 会員数について

國府方会計幹事より、会員数の説明がなされた。

4.3. 各委員会からの報告

編集委員会、学会賞選考委員会、論文賞選考委員会、植物データベース専門委員会、絶滅危惧植物専門第一委員会、及び同第二委員会、ABS 問題対応委員会、国際シンポジウム準備委員会、標本問題対応委員会、研究・普及推進委員会の各委員長、またはその代理から活動報告がなされた。

5. 審議事項

審議に先立って、zoom ウェビナーの投票と挙手（投票機能に制限がある方）の機能をもちいて出席者数の確認を行い、庶務幹事より総会出席者 120 名（後に 114 名）であることが報告された。

5.1. 【第一号議案】 2020 年度事業報告、ならびに 2020 年度決算報告

前年度の事業報告と決算報告が、西野庶務幹事と國府方会計幹事よりそれぞれ説明された。池田啓監事、渡邊幹男監事による会務および会計が適切であるとの監査結果が提示された。審議の結果、賛成 118 票、反対票 0 票、白票 2 票で出席者（120 人）の賛成多数をもって承認された。

5.2. 【第二号議案】 2021 年度事業計画、ならびに 2021 年度予算案

西野庶務幹事と國府方会計幹事より本年度の事業計画と予算案の説明があった（ニュースレター 80 号掲載のとおり）。審議の結果、賛成 112 票、反対 0 票、白票 0 票の賛成多数をもって承認された。

5.3. 【第三号議案】 次期監事の選出について

役員等の選出についての細則第 6 条に基づき、評議員会から次の二名が次期監事として推薦された。審議の結果、賛成多数で承認された。

池田 啓 氏、 大村 嘉人 氏

5.4. 【第四号議案】 会則改定について（1）会員の権利と会費についての細則第 1 条の会則変更案

会費未納会員への郵便物発送の停止を可能にする会則変更であることが西野庶務幹事より説明された。審議の結果、賛成 115 票、反対 1 票、白票 2 票で出席者（118 人）の 3 分の 2 以上をもって承認された。

5.5. 【第五号議案】 会則改定について（2）会則第 9 条の会則変更案

特殊事情のある会費未納会員について、除名以外の退会方法と再入会を規定する会則変更であることが、西野庶務幹事より説明された。審議の結果、賛成 108 票、反対 1 票、白票 5 票で出席者（114 人）の 3 分の 2 以上をもって承認された。

6. その他

6.1. 名誉会員への推薦候補者についてお願い

名誉会員に推薦するための候補者を自薦，他薦を問わず募ることが西野庶務幹事より告知された。

6.2. 第 21 回大会開催について

村上会長より次回第 21 回大会について，2022 年 3 月 3 日から同月 6 日の日程で開催されることが告知され，本大会閉会前に勝山輝男次回大会会長より挨拶があった。

6.3. 野外研修会について

2021 年度野外研究会は関西にて調整中であることが提示された。

以上

2021 年度事業計画および予算

庶務幹事 西野 貴子

ニュースレター 80 号（前号）にて提示した 2021 年度事業計画案，および予算案は，総会にて承認され変更はないため，本号での掲載は割愛いたします。

会務報告

庶務幹事 西野 貴子

協力学術研究団体として，日本学術会議からのアンケート「日本学術会議のより良い役割発揮に向けて」に回答した。（2021 年 2 月）

琉球大学熱帯生物圏研究センターの共同利用・共同研究拠点認定に関する要望書を会長名にて提出した。（2021 年 2 月）

2020 年に到着した交換図書一覧

図書幹事 藤井俊夫

国外 Aliso 37

Annals of the Missouri Botanical Garden 105(1-3)

Bulletin Mensuel de la Société d'Histoire Naturelle de Toulouse 155

Bulletin Mensuel de la Société Linnéenne de Lyon 89(1-2)

Fritschiana 95

Gardenwise 55

Hoppea 80

Journal of Field Biology 62(6)

Journal of the National Taiwan Museum 73(1-2)

Journal of Tropical and Subtropical Botany 28(1-5)

Kew Bulletin 74(4), 75(1-2)

Korean Journal of Plant Taxonomy 49(4)

Novon 28(1-3)

Plant Diversity 42(1-3)

Plant Ecology & Diversity 13(1-2)

Reinwardtia 19(1)

- Senckenberg-Reihe 83
Systematics and Biodiversity 17(5-8), 18(1-4)
Thai Forest Bulletin 48(1)
Thaiszia 29(1,2)
The Bulletin of the National Tropical Botanical Garden 36(1-3)
The Gardens' Bulletin Singapore 72(1)
Webbia 74(2)
Willdenowia 50(1-2)
- 国内 大阪市立自然史博物館研究報告 73
大阪市立自然史博物館収蔵資料目録 50
神奈川県植物誌調査会ニュース 88, 89
国立科学博物館研究報告 45(3,4), 46(1-3)
自然史研究 4(3)
Journal of Plant Research 133(1-6)
植物研究雑誌 95(1-6)
日本蘚苔類文献目録
蘚苔類研究 12(3,4)
岐阜県植物研究会誌 34
近畿植物同好会会誌 43
金剛山の植物
近畿植物同好会会報 130
兵庫県植物誌研究会 会報 123

お知らせ

東アジア国際植物分類学シンポジウム 2021 のご案内

国際シンポジウム準備委員長 池田 博

植物分類学に関する国際シンポジウム（日中韓3国シンポジウム）は、昨年開催する予定がコロナのため延期されていましたが、今年の秋（10月中旬から下旬）にオンラインで開催することになりました。詳しい日程や内容については、次号のニュースレターでアナウンスします。

コロナ禍の状況で、研究成果の公開の場が限られている状況かと思えます。このシンポジウムでの発表は国際学会での発表と位置づけられますので、会員（特に若手の皆様）の積極的な参加・発表をお待ちしています。お問い合わせは池田（h_ikeda@um.u-tokyo.ac.jp）まで。

日本植物分類学会第21回大会（横須賀）のお知らせ

第21回大会会長 勝山 輝男

日本植物分類学会第21回大会を下記の通り開催いたします。大会および参加申し込みの詳細は、大会ホームページおよび2021年11月号のニュースレターでお知らせいたします。

【会場】横須賀市文化会館 神奈川県横須賀市深田台 50

【日程】2022年3月3日（木）各種委員会，評議員会

3月4日（金）研究発表

3月5日（土）研究発表，総会，受賞講演，懇親会など

3月6日（日）研究発表，公開講演会（午後）

【ホームページ】現在作成中。アクセス可能になり次第，日本植物分類学会ホームページ等にて連絡いたします。

【問い合わせ先】日本植物分類学会第21回大会（横須賀大会）実行委員会 大会実行委員長 山本 薫
〒238-0016 神奈川県横須賀市深田台95 横須賀市自然・人文博物館
TEL: 046-824-3688; Email: kaoru-yamamoto@city.yokosuka.kanagawa.jp

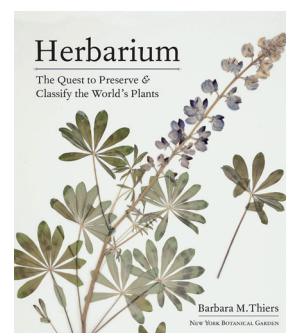
書評

Herbarium The Quest to Preserve & Classify the World's Plants

Barbara M. Thiers/ 著 Timber Press/ 発行 ISBN : 978-1-60469-930-2

定価：40 ドル レターサイズ 304 ページ 2020 年 12 月 8 日

高野 温子（兵庫県立人と自然の博物館）



タイトルの通り，ハーバリウム（昨今流行りの乾燥植物のシリコンオイル漬けではなく，植物標本庫の方）の成立からその将来までを紹介した本です。著者の Barbara M. Thiers はニューヨーク植物園の William and Lynda Steere Herbarium の館長で，現アメリカ植物分類学会会長でもあります。タイトルからてっきり専門書と想像して買い求めましたが，実際は一般向けの普及啓発本として書かれたものでした。ほぼ全ての見開きページに多くの美しい植物や標本写真が掲載され，眺めているだけでも楽しめます。英語も比較的平易で読みやすく，何より内容が面白い！世界で初めて現在のさく葉標本の形と植物標本庫をつくった16世紀のルカ・ギーニー（Luca Ghini）に始まり，大航海時代のヨーロッパの博物学者の話から，アメリカの植物標本庫創立とそれを支えた科学者の話に続き，著者の造詣が深いオーストラリア，中国，南アフリカ，ブラジルの植物標本庫事情とそれを支えた人物像が語られます。

Linné, Darwin, Wallace, Joseph Banks, Asa Gray 等の著名な学者ばかりでなく，印象的な女性研究者・コレクターも数多く登場します。女を船に乘せると災いが起こると信じられていた大航海時代，恋人の植物学者 Philibert Commerson を助けるため性別を偽り Bougainville（ブーゲンビリアという花木の名は，彼の名前にちなみます）が率いる艦船に乗り込み，初の世界一周を成し遂げた女性となった Jeanne Barré。同業者の夫と離婚した後，幼い娘を友人に預け単身10年間オーストラリアで植物採集を行ったドイツのコレクター Amelie Dietrich，1906年4月のサンフランシスコ大地震後の火災で自宅と全財産を失いながらも，California Academy のタイプ標本を炎から守ったキュレーターの Alice Eastwood。3万6000点の標本を採集し「南アフリカで最も傑出したコレクター」と呼ばれる Elsie Esterhuysen 等々。

凄い人達ばかりでなく，アメリカ植物分類学史上最高の「困ったちゃん」Constantine Samuel Rafinesque-Schmaltz も登場します。Rafinesque は「究極のスプリッター（＝狭い種概念の持ち主。By B. Thiers）」で，生涯に1,000編以上の論文を表し2,700属6,700種にも及ぶ植物を記載していますが，今日認められているものは300種足らずです。同じ植物に繰り返し名前をつけることもままあり，そのことを指摘されて「植物に2つ名前があるなら一方を選べばすむ話だが，名前がなければその存在は埋もれてしまう。どちらが科学にとって良いのか？」と，半ば開き直りともとれる発言を残しています。死

後、彼のコレクションは 6,000 ドルで売りに出されたものの買い手が見つらず、結局 45 ドルで Elias Durald という植物学者に落札されます。友人にあてた手紙の中で、Durald は Rafinesque コレクションの保存状態の悪さと整理作業の大変さを嘆き、Rafinesque のことを「史上最低のコレクター」と罵っています。Durald のスクリーニング作業の後、残った標本はたった 275 枚でした。つまり 6,700 種のタイプ標本は殆どが捨てられてしまったのです。このことは後のアメリカの植物分類学に大きな混乱を残しました。

維管束植物だけでなく、藻類、蘚苔類、菌類標本のコレクション及びコレクターにも良く触れられていて、美しい標本写真も数多く掲載されているのですが、既に文章が随分長くなったので割愛します。

最後に植物標本庫の未来が語られます。科学技術の進歩により、植物標本は単にその植物の実在を保証する役割を担うだけでなく、様々な研究に用いられるようになりました。DNA を抽出し系統解析や遺伝解析に用いたり、組織に含まれる鉄・コバルト・亜鉛、あるいはカドミウムや水銀などの微量な重金属から過去の公害被害の推定を行ったり、葉裏の気孔の数から過去の CO₂ 濃度の推定を行うこともできます。GIS マップに採集地情報を落としこめば、ニッチモデリングの解析にも使えます。外来植物の侵入年代と拡散経路の推定や、開花フェノロジーの経年変化を読み取ることも可能です。最近では標本のデジタル画像を機械学習させ、植物の同定精度をあげる取り組みも始まっています。

価値は上がっているにもかかわらず、今日標本を取り巻く環境は厳しいものです。100 万点を超すコレクションがあるにも関わらず管理者が一人しかいないハーバリウム、スタジアム建設のために立ち退きを余儀なくされる大学博物館。このような状況の改善のためには、何より社会の理解が必要です。そのためには標本の価値と、標本を未来に継承することの重要性を理解し支える人を、少しずつでも増やしていく必要があります。筆者はそのために、数々の魅力的な写真やエピソードを交えながらこの本を著したのだらうと想像します。

お察しのとおり英語の本ではありますが、この本の内容を一番理解し共感できるのは日本植物分類学会の会員諸氏と思い、ご紹介させていただく次第です。Amazon Japan で購入可能ですし、昨今 google lens や Deep L 等、種々の便利な翻訳アプリがありますので、是非ともチャレンジ頂きたいです。

山口・琉球等帰化植物図鑑 第 2 巻

南 敦 / 監修 富永 啓介 / 編 山口植物学会 / 発行 ISBN : 978-4-9910023-9-7
定価 : 本体 2,500 円 + 税 A5 版 220 ページ 2020 年 12 月 15 日

山本 薫 (横須賀市自然・人文博物館)

山口植物学会が山口県および隣接する島根県と広島県、さらには琉球列島で調査・観察した帰化植物を扱った図鑑になります。2017 年に刊行された第 1 巻 (現在は入手困難) に続き、新称 29 種類を含む新たな帰化植物が 388 種掲載されています。帰化植物といっても、有史以前のものから近年に分布を拡大したものまで様々ありますが、「いつ・どこで・だれ」によって最初に記録されたかを明記しているため、情報の整理ができます。特筆すべきは、掲載種のすべてが山口県内外の博物館・大学に収蔵されていることです。山口県内の各地において帰化植物が増えている実態が伝わるとともに、山口植物学会のみなさまの意識の高さが窺えます。

すべての種について自生地撮影された写真が掲載されているため (もちろんカラー)、ビジュアル的にも充実しています。種によっては、同定の手掛かりになるような果実や種子、葉の拡大写真なども添えられています。個人的に、山口県をはじめとした中国地方産と琉球列島産の帰化植物は分けて掲載するとより使いやすいように感じました (琉球列島産とわかるアイコンは付されています)。大きさは A5 版と、野外への携帯も可能なサイズです。入手方法はハガキまたは FAX でのお申込みとなりますが、ぜひお手にとっていただきたい 1 冊です。【問合せ・申込み】〒743-0013 山口県光市中央 6 丁目 21-16 南 敦 Fax. 0833-71-3235 【参照】<https://ybotany.amebaownd.com/>



入会申込, 住所変更, 退会届, 会費納入, 購読申込
などは下記へご連絡ください。

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館 植物研究部

日本植物分類学会 國府方 吾郎 (会計幹事)

Phone: 029-853-8967, Fax: 029-853-8401

E-mail: kaikei@e-jsp.s.com

会 費: 一般会員 7,000 円, 学生会員 3,000 円,

団体会員 8,000 円

郵便振替口座番号: 00120-9-41247

加入者名: 日本植物分類学会

令和 3 (2021) 年 5 月 20 日印刷

令和 3 (2021) 年 5 月 25 日発行

編集兼 神奈川県横須賀市深田台 95
発行人 横須賀市自然・人文博物館
山本 薫

発行所 茨城県つくば市天久保 4-1-1
国立科学博物館植物研究部
日本植物分類学会

* ニュースレターに掲載された記事の著作権は日本植物分類学会が管理いたします。